

座右の銘



ほんまかいな。なんでやねん？おもしろいな。

木内 良明 大学院医系科学研究科 医学分野 視覚病態学 教授

大阪で22年、広島で32年、アメリカ留学や徳島、山口で残りの数年を過ごして現在に至ります。という事で本文にも大阪弁が混じります。2006年に広島に戻る前の話です。大阪の市中基幹病院で勤務し、難治性の病態を相手に診療していました。治らない患者の臨床を突き詰めていくと「なぜ手術の効果がすぐなくなるのか」、「なぜ薬が効かないのか」。なんでやねん。市中の病院では答えを得ることに限界がありました。

2007年6月に抗vascular endothelial growth factor (VEGF) 薬が登場したとき、眼内に新生血管を伴う緑内障の治療が大きく変わると宣伝されました。曰く、術中術後の出血に伴う合併症が少ない。ほんまかいな。という事で抗VEGF薬を使った手術を行うと、術翌日の眼内は血だらけでした。なんでやねん。大学という所はありがたく、動物を使った実験も出来ます。抗VEGF薬を使っても新生血管は消えない。見えなくなるだけという事がわかりました。

原爆被爆者は被ばくしていない人と比べて緑内障の発症リスクが少ないという論文が出ました。ほんまかいな。被爆者の緑内障検診を包括的に行い、日本人に多い正常眼圧緑内障（末期まで自覚症状がない）は被ばく線量に比例して発症リスクが増えること、問診だけで診断すると逆の結果になることがわかりました。被ばくすると発症リスクが増えるのはなんでやねん。被爆者の眼血流障害が正常眼圧緑内障の原因の一つであると証明できました。真実を解き明かす作業はおもしろいな。

おかげさま



小池 透 大学院医系科学研究科 薬学分野 医薬分子機能科学 教授

半世紀以上も前のことですが、亡き両親は、幼い私を連れて、尾道市の千光寺に詣でたそうです。そのお寺の本堂には、「日常の五心」という次のような言葉が書かれています。『「はい」という素直な心（ひがんだところがなく、人に逆らわないこと、心が純真さを失っていないこと、考え・態度・動作が真っ直ぐなこと）、「ありがとう」という感謝の心（有り難く思って礼をいうこと）、「すみません」という反省の心（自分の言動やあり方を振り返って考えてみること）、「おかげさま」という謙虚な心（自分を偉いものと思わず、素直に他に学ぶ気持ちがあること）、「私がします」という奉仕の心（社会や人のために、私心を捨てて力をつくすこと）』の五つの言葉です。そういう心を誰もが持ち続けることができたなら、平和な世界になると思えますが、俗世間の人間にとっては、なかなかそうはいきません。だからこそ、お寺の本堂にこの言葉が書かれているのだと思います。

私が広島大学に採用された折、私の母は、その五つの言葉のうち「おかげさま」という心を特に大切にする教員になるよう言っていました。これまで、沢山の方々から「おかげ」を頂きながら、私自身、この言葉を生活の中で生かしてきたかと自問すれば、なかなかそうではなかったと思います。私も後2年足らずで退職の身となり、肩書きのないただの人に戻ります。今ではもう遅すぎるかもしれませんが、「おかげさま」という言葉を大切に、残りの教員生活や退職後に生かしていきたいと思えます。

私が広島大学に採用された折、私の母は、その五つの言葉のうち「おかげさま」という心を特に大切にする教員になるよう言っていました。これまで、沢山の方々から「おかげ」を頂きながら、私自身、この言葉を生活の中で生かしてきたかと自問すれば、なかなかそうではなかったと思います。私も後2年足らずで退職の身となり、肩書きのないただの人に戻ります。今ではもう遅すぎるかもしれませんが、「おかげさま」という言葉を大切に、残りの教員生活や退職後に生かしていきたいと思えます。